

# 平成30年度「学力・学習状況」検証事業研究成果報告書

市原市立辰巳台東小学校

- 1 学校紹介 学級数 15学級（特別支援学級2学級を含む）  
全校児童数 375名 教職員数 24名
- 2 研究主題 基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、活用できる児童の育成  
～学力向上を目指して～
- 3 研究の概要



## (1) 学力向上のための取組について

### ① 学力傾向を分析し、児童の長所や課題を把握して、指導の共通化、授業改善に役立てる。

- ・校内研修において、全国学力・学習状況調査のデータを分析し、学年や学級の傾向を把握した。
- ・「本時のめあてを明確にする」「授業の終わりに振り返りをする」「自分で考えさせ、書く時間を確保する」などの指導の共通化を図った。「授業改善のための『セルフチェックシート』」を活用した。
- ・授業研究会を行い、市教委の指導主事の指導を受けている。「授業錬磨の公開日」では、近隣の学校と授業を参観し合い、教具や指導法について情報交換を行った。

### ② 基礎学力の充実を図るために、毎朝15分のチャレンジタイムを設定する。

- ・漢字や計算練習では、県教委作成の「ちばっ子チャレンジ100」や市教委作成の「スキルアップドリル（算数）」を活用している。平成29年度より、市教委作成の「言語ワーク（言語能力向上ワークシート）」も活用した。
- ・題材を選択する力や文章表現する力の向上をめあてに、100マス作文を行った。3分間で、低学年は80字、中学年は90字、高学年は100字を書くことを目標としている。

### ③ 「家庭学習の手引き」を作成し、年度初めに配付し、児童や保護者に周知した。

- ・家庭学習の取り組ませ方や習慣化のポイント、学年ごとの内容の例を知らせた。

## (2) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用について

### ① 学力差に対応し、個に応じた指導を行うために、指導形態を工夫する。

- ・算数では、全学年でT・Tまたは少人数指導を実施した。
- ・千葉県学習サポーターと協力して、平成28年度は、1，2年生の国語や算数、平成29年度は、3，4年生の算数を中心に学習支援を行った。

### ② 自主的、計画的に学習する児童育成のために、放課後や夏休みに学習教室を開く。

- ・放課後学習教室については、千葉県学習サポーターといちはら学習サポーターと連携して、3年生以上の希望者を対象に行った。内容は、パソコンによるドリル学習（eライブラリアドバンス）の他に、2年生から6年生までの学習内容の国語、算数のプリントを用意し、学習したいものを児童が選んで取り組むようにしている。
- ・夏休みの学習教室では、上記のプリントやドリル、問題集などの中から児童が選んで学習した。

## 4 成果について

- ・自分で考えさせ、書く時間を確保することを意識して授業改善に取り組むことで、深い理解や話し合い活動の充実につながっている。
- ・千葉県学習サポーターや加配教員と協力して、3，4年生の算数を少人数指導で行ったことで、学習の定着率が上がった児童がいた。
- ・100マス作文に取り組むことで、書くことに対する抵抗が軽減した。季節に合った話題を投げかけることで、興味が広がり、書く題材を選択する力も伸びてきている。
- ・放課後学習教室で児童を指導することで、学習意欲や学習習慣の改善が見られた児童がいた。